

近年、バリアフリーリフォームという言葉を目にするようになりました。バリアフリーはバリア（障壁）をなくすことですから、障壁をなくして安心・安全に暮らせるようにするのがバリアフリーリフォームです。小さなお子さんやご高齢の方はもちろん、すべての人たちが暮らしやすい家が「バリアフリーの家」なのです。

バリアフリー特集



二人暮らしに
ぴったりの
バリアフリー

東京都江東区
K様邸



無垢フローリングの床は、段差がまったくないバリアフリー仕様。寝室への引き戸を開ければ、家全体がゆるやかに繋がります。

シニア世代のご夫婦がこの先もずっと
安心して暮らせるよう、
しっかりバリアフリー化しました。



トイレと洗面は仕切りを造らず、一つのスペースにまとめました。介護が必要になった時でも十分なスペースがあります。

空気もバリアフリー!?

冬場、部屋の中は暖かいのに、廊下やトイレはとっても寒いというお住まいも多いと思います。暖かい部屋から寒い部屋に行くと、血圧が急変するため、ご高齢の方や高血圧の方は命の危険もあります。最近よく聞かれるヒートショック現象です。このよ



断熱材

うような室内の温度差をなくし、家中どこへ行っても同じ気温、同じ空気にするのが「空気のバリアフリー」という考え方。本格的に空気をバリアフリー化するには、建物全体の断熱性と気密性を高めることが必要ですが、寒い部屋に小さな暖房器具を置くだけでも効果がありますよ。



参考商品：ミニセラミックファンヒーター（プラスマイナスゼロ）

色彩計画でもバリアフリー!!



年を取ると、視力も弱ってくるものです。特に白内障の方は、色の識別が難しくなり、物や段差が見えにくくなると言われています。家の中で転ぶ原因は、案外、足ではなくて眼にあるかもしれません。そうなる前に考えておきたいのが「色彩のバリアフリー」。床と壁の色に差をつけて境目をわかりやすくするなど、色彩によって視力をカバーするのです。明度が大きく異なる「白」と「黒」など、コントラストの強い色を使うのがポイント。見えにくいと感じたら、まずは家具やマットの色を変えてみましょう。



足を乗せるところだけが濃い色になっている階段

床の段差を解消し、階段もゆるやかなものに架け替えました。万が一、介護が必要になっても安心ですね。



お母様が暮らしやすく、
介護もしやすい家



座敷での生活は正座が多く、意外と足に負担がかかるもの。足が楽に伸ばせる掘りごたつは、ご高齢の方にもおすすめです。思い出の座卓がピッタリのサイズです。



トイレには、手すり代わりに使えるミニカウンターを設けました。ドアは軽く開け閉めできるスライディングドアに。

東京都江東区
F様邸

ご高齢のお母様も暮らしやすく、
ご家族もお世話しやすい工夫をして、
みんなが笑顔で暮らせるようになりました。



ご両親も、
お子さんたちも、
猫ちゃんも快適！



収納が足りないと部屋に物があふれ、転倒の危険も高まります。十分な収納を設けるのもバリアフリー化の一つです。

東京都江東区
K様邸

バリアフリー化で、
5匹の猫ちゃんも含めて
家族みんなが快適に
過ごせる住まいになりました。



室内網戸
つき

猫ちゃんが入れないお部屋には、通風と採光に役立つ室内網戸をつけました。吊り戸なので段差ゼロです。



どの収納スペースに何をしまうかを想定した収納計画です。



ご両親のお部屋と廊下の両方から入れるトイレ。ライトはセンサー付きなので、消し忘れもなく、夜中でも安心です。

ホームページの「リフォーム事例」では、この他にもバリアフリーの事例をたくさんご覧いただけます。

<http://example.eco-inc.co.jp/>

